

安城芸妓文化振興会発表会

平成二十七年七月二十日（月）

ホテルグランドティアラ安城

暑さ厳しき折、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今年もまた日頃の成果を発表させて頂く機会に恵まれました事
組合員一同心よりお礼申し上げます。

今後ともどうぞご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



一、長唄（舞踊） 七福神

立方

三味線

三味笛

てまり

かすみ

ひと美

子桃

美香

小鼓

美幸

夏

由美

涼

大鼓

みず

江梨子

太鼓

唄

絵美

ふみ

美千子

乃ん子

【解説】

この曲は長唄の中でも最も古い曲で、江戸の芝居小屋では、毎日、夜の明けないうちに、脇狂言といって、見習の人達が演奏した曲として伝わったものです。

現在は、御祝儀曲として用いられます。曲調は華やかで、舞踊も早間の踊りで、お目出度い曲であります。

二、長唄 供 奴

唄

三味線

三味笛

かすみ

美 香

み ず

ふ み

美 乃

ひと美

美 幸

美千子

小鼓

乃ん子

てまり

由 美

涼

夏

大鼓

江梨子

太鼓

繪 美

大太鼓

子 桃

【解説】

歌舞伎の舞踊として作られた曲

一八二六年三月、江戸中村座初演

武士の供をして郭へ通う奴(おつきの者)が主人とはぐれ、提灯を片手に走り出したという趣向で、途中、主人の真似をして、丹前六方(当時流行ったファッションや歩き方)をしたり、足拍子を踏んで踊りぬきます。

全体に華やかな曲で、唄・三味線・囃子共に派手に演奏をしますが、途中、足拍子を踏む処で三味線一挺と小鼓一調の掛け合いが最大の聞きどころでもあります。

三、 笛演奏

祇園小唄

奴さん

芸妓一同

指導

鳴物 住田勝知香師

長唄 杵屋 六佑師

舞踊 西川 巴喜師

笛 福原 百七師

安城芸妓組合